

岡山大学工学部 同窓会報

No.32
2020.8



工学部創立60周年記念号

Contents

工学部長挨拶	2	職場紹介、各支部報告	14
代表幹事挨拶	3	～人生100年時代に向けてどう生きるか～ 岡田 実	19
退職にあたって	4	寄付者一覧	21
学科の最近の話題	7	会計報告	22
岡山大学工学部開学から1号館建設まで 写真集	10	同窓会事務局より	23
フェニックスの会2019 鳥居 滋先生 米寿のお祝いの会	12	工学部同窓会 コミュニティー広場	24
2019年度 工学部学科同窓会活動報告	13		

新生「工学部」に向かって



工学部長
阿部 匡伸

COVID-19の緊急事態宣言が解除され、いよいよ正常化に向けて動きだそうとしておりますが（5月30日現在）、同窓会の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか？本学では、卒業式と入学式が中止となり、1学期の講義開始を4月20日に遅らせて3密を避けてオリエンテーションは実施したものの、事態の深刻化により4月17日には学生の構内立入りが禁止され、1学期の講義は全てオンライン実施となりました。2学期（6月15日）から一部対面授業を開始する予定になってはいますが、今後の予断を許しません。感染を防止しつつ、如何に学生にモチベーションを維持させ、教育の質を保証するかを、工学部の教職員全員で日々模索しております。また、この事態により、4月29日に予定していた工学部60周年記念行事も秋口に延期とさせて頂きました。こちらも不透明な状況ですが、ご理解よろしくお願い申し上げます。

さて、2年ほど前から工学部と環境理工学部の再編統合を検討して参りました。新生「工学部」として来年度からスタートさせる計画です。本年4月に文部科学省に申請書を提出し、夏ごろには認可される予定です。現状の2学部8学科を、1学部（工学部）1学科（工学科）として、4系10コースに再編します。詳細は図1をご覧ください。新生「工学部」の教育プログラムでは、社会からの要請、文部科学省の示す方向性を取り入れています。

幾つかポイントを紹介します。1つ目は情報関連教育の再編統合です。昨今のAI、IoT、ビッグデータの進展に伴い従来の情報工学、電気工学、数理科学の境界は曖昧となってきています。そこで情報技術に関連した教育プログラムを1つの系にまとめました。学生はより広い視野で情報関係の技術を学べます。2つ目は、建築系教育プログラムの新設です。建築関係の教育は以前から数多く要望されてきており、一方で新木質構造材料（CLT）関連の人材育成が県内企業から強く要望されています。CLTは今後の普及が期待されており、新国立競技場にも多用されています。この設計者である隈研吾氏を特別招聘教授としてお迎えします。3つ目は、全工学部生向けの必修科目の新設です。「SDGs関連科目」では、環境理工学部が20年間に亘って培ってきた環境学をベースとし、工学を志すものにとって礎となる考え方を習得してもらいます。「数理データサイエンス科目」では、理科系ならではの高度な内容を演習なども含めて習得させ、実践的に活用できる人材を育成したいと考えています。

予期せぬCOVID-19の襲来に見舞われつつも、新生「工学部」の立ち上げに邁進しております。新生「工学部」に期待して頂くとともに、今後とも皆様の変らぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。なお、認可が下りておりませんので上記の内容は今後変更される可能性もございます。



※各系の募集人数は目安です。

図1 新生「工学部」の構成

「工学部同窓会からのご挨拶」

新 入生の皆様、岡山大学工学部に入学され、大学生活も徐々に軌道に乗りつつある頃と思います。今年は、新型コロナウイルスにより、正常な環境でのスタートになりませんでした。Web授業等いろいろな苦労があったと思います。これを機に、世の中のシステムが大きく変わろうとしています、どうかこの時期をプラス思考で乗り切り、新たな社会への飛躍の機会としていただきたいと思います。

さて、工学部が昭和35年（1960年）4月1日に機械工学科と工業化学科の2学科（定員各40名）で設立されて以来、本年度で工学部創立60周年を迎えました。学部は学科増、定員増を伴って発展し、入学定員460名の岡山大学の最大学部となっています。また、工学部同窓会は、現旧教員、在学生、卒業生が正会員ですが、卒業生は現在22,000人を超えています。同窓会が大学と卒業生の絆を保ち、互いに協力し合う良い関係を作り出す場であることを願っています。

本号から新たな試みとして「工学部同窓会コミュニティ広場」欄を新設しました。企業でご活躍の方々や様々な事業を展開されている方々がこの広場欄を活用されて、人的な交流や情報交換により、それぞれの仕事・事業の一層の発展の機会が得られることを願っています。同窓会が、懇親と情報交換の場であるとともに、新たな力や価値を生み出す場となることを願っています。そのことが、同窓会が持続的に発展する原動力となると考えています。

工学部同窓会には、関東支部、関西支部、岡山支部があり、さらに東海支部の創設が準備されています。支部活動を推進していただいている多くの皆様に深く感謝しています。

また、2021年4月から工学部と環境理工学部の合併による新生「工学部」が誕生する予定です。それに伴って、また新しい同窓会へと変容、発展していきたいと思えます。工学部同窓会はまだまだ発展途上にあります。皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



工学部同窓会代表幹事

酒井 貴志

（1970年合成化学科卒）

工学部同窓会の活動

- ① 会員名簿の整備：現在は、冊子体での名簿発行は行わず、電子媒体での情報管理を小野高速印刷(株)に委託しています。同窓会活動のために名簿情報の必要な方は、工学部同窓会事務局にご相談ください。また、住所等の変更がありましたら、事務局までお知らせください。
- ② 「岡山大学工学部同窓会報」の発行：毎年、8月初旬に発行しています。2018年（第30号）より、全頁カラー化を行い、読んで戴ける会報を目指しています。
- ③ 「岡山大学ホームカミングデイ」（毎年10月）における工学部同窓会総会、報告会、懇親会の開催：大学及び工学部で様々な企画があります。ホームページや本会報告書を参照下さい。
- ④ 学科同窓会の活動：各学科同窓会の幹事が中心となって、学科同窓会を運営し、また学部同窓会の行事の支援も行っています。OBからの企業体験講演会、見学会、交流会、学科教育支援活動、及び学部同窓会活動などを行っています。本号、報告欄をご覧ください。
- ⑤ 学部教育活動の支援：学部の講義等への講師派遣、オープンキャンパス、ホームカミングデイ行事等への支援等を行っています。
- ⑥ 関東支部、関西支部、岡山支部の各支部活動支援、新支部創設活動の支援を行っています。

退職にあたって

退職にあたって

機械システム系学科

富田 栄二



令和2年3月末で定年よりも1年早く退職して、4月からは中国職業能力開発大学校で校長として勤務しています。昭和57年8月に岡山大学に助手として着任してから38年弱もの長い間、岡山大学でお世話になりました。

着任した当時は、今から考えるとまさに古き良き時代の大学(?)でした。工和会の現在の行事はビアパーティと忘年会のみですが、当時は、学科対抗ソフトボール大会、ボーリング大会、秋の遠足などもありました。ソフトボール大会では、試合後、勝ち負けに拘らずビールを飲むのが楽しみでした。また、法人化前までは運営費交付金と科研費があれば、何とか研究はでき、何年か一度、大学から大型予算も手当されるという状態でした。

1988年にデトロイトに行き、米国自動車学会で発表しました。その前後にカリフォルニア大学(UC)バークレー校を訪問し、留学するならここと思いました。おかげさまで1994年から10カ月間、UCバークレー校において客員研究員として研究をする機会を得ました。ここでは米国と日本における社会システムの差異を実感しました。例えば、大学の教員は、研究費は自分で獲得し

て大学院生を雇用し、毎年論文を出さないと生き残れなく、大学から提供されるのは自分の部屋とオーバーヘッドプロジェクト(当時、使用されていた投影機のこと、獲得した研究費がオーバーヘッドで大学に取られるということに引っ掛けたジョーク)だけだという言葉が今も耳に残っています。バークレーには世界中から学生が集まっていました。日本に帰ってからは、いつか世界中から学生が集まるような一流の研究室にしたいと強く思いました。

それまでは、機械系の分野では日本機械学会論文集に採択されればそれなりのステータスがあり、英語での論文発表はあまり力を入れていませんでした。しかし、帰国後は英語での論文発表に力を入れるようになり、その業績を見て少しずつ留学生が研究室に来るようになり、多いときには30人程度の研究室にプラスして9人程度の留学生がいるような状態になりました。ある研究グループでは留学生のほうが多く、研究打合せを英語でやりました。当時の学生の一人は、4月に研究室に入ったときには英語がほとんど話すことができなかつたのに、卒業する頃には英語で議論できるようにまでなっており、「ただノバ(無料で英会話学校Novaに通っている)状態ですね」と言ってくれました。ネイティブでなくても日本語が喋れないが英語は話すという留学生の存在は貴重で、英語でコミュニケーションを取らざるを得ない状態を作り出すことができ、非常に効果的であったと思います。当時、大学には留学



生のケアをする部署がなく、教員が細かいことまで面倒を見る必要があり最初はかなり大きな負担を感じました。そこで、多くの留学生を受け入れるために、秘書を雇用しました。秘書を雇用するためには多額の外部資金を獲得する必要がありましたが、幸いにも循環が良い方向にうまく回り、ポスドクも何人か雇用することもでき、研究が進んだと思っています。

2014年からは、岡山大学がスーパーグローバル大学に選ばれたこともあり、急速に国際化を進めることになりました。そこで、学科単位での国際化にも力を入れる

べく、2016年から上海市にある同済大学と岡山大学機械系の学生交流が始まりました。2016年1月にグローバルパートナーズの人たちと一緒に学部長として同済大学を訪問した時、先方の学科長が私が懇意にしていた教授だったので、話がすぐに纏まりました。写真は2019年9月に岡山大学の学生12人を連れて同済大学を訪問した時のものです。2020年は5回目の予定でしたがコロナ禍の影響で翌年に延期になりましたが、今後も継続していくことは、双方の学生にとっても異文化交流として貴重な経験になるかと思っています。

退職にあたって

工学部電気通信系学科

塚田 啓二



岡山大学に赴任してからあっという間に16年がたち、定年退職で教育からは退きました。赴任当時、企業の研究所に長くいたものですから、果たして大学の文化になじむことができるか心配でした。最初のころは、教育のための授業の準備と研究室の新規立ち上げが大変で、とくに研究室にはまったくなにも機材がないところから実験環境をそろえることに苦労しました。授業に関しては、本当に理解してくれているのだろうか、またどうしたら理解しやすいだろうかと毎年心配が続きましたが、振り返ってみると学生の方が理解に努力を払ってくれたようです。研究に関しては、初期のころに研究室希望で私のところを選んでくれた学生は、かなり冒険心あるいは新しもの好きだったのではないのでしょうか。学生が頑張ってくれて国内外での学会活動や論文発表など多く

の成果をだしてくれて、それに伴って研究費確保ができるようになり年々研究室の活動と設備が充実するというスパイラルアップ効果を得ることができました。大学での後半では、企業での研究生生活となんら変わりのない充実した研究が学生と一緒にできたと思います。最終年度は例年実施している研究室研修旅行を拡張して2泊3日で実施しました。卒業生および在校生が写真にあるように大勢参加してくれ現在活躍している近況報告などがあり、いままでの大学でやってきたことが実を結んでいるなど感慨深いものがありました。定年にあたって、最終講義や学会での特別講演など多くを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症により全てキャンセルになって、現在も外出を自粛している状態です。なんて運が悪いのだろうと考えましたが、これは世界中の全ての人も同じ



であると考え、運などを考えるよりは価値観そのものを変える時かなと思っています。仕事がテレワーク主体になり、大学の授業もオンライン授業となっていますが、この生活様式は特殊なものではありません。大学に移ったころには、企業の一部では仕事は固定勤務時間でなくコアタイム制や裁量労働制に移行し成果が問われるようになっていました。今回の危機をきっかけに、成果さえ

だせば勤務場所はどこでもいいテレワークが主体の勤務形態が常態化してくるでしょう。学問も同様に目的を達成するためより多様な習得方法があり、大学はそれをサポートしていく効率的な授業を模索していく必要があると考えます。退職してから生活が一変しましたが、これからの人生を見直すきっかけが増えたようです。

退職にあたって — 大学での教育と研究

化学生命系学科

高井 和彦



新型コロナウイルスの蔓延で大学はその風景を大きく変えた。構内を歩く学生の姿はほとんどなく、とても静かである。半年前、誰が予想したであろう。本来の意味の「不要不急」でないことが、いかに社会を形づくっていたのか。価値観を見直す機会を与えられたものの、それを考える余裕がない状況が続いている。

4月からの1, 2学期は講義室での授業が取りやめとなり、急遽、オンライン授業が決まった。大学本部の素早い決定だったが、実情は「付け焼刃」で混乱が起こった。設備不足で講義中継はおこなえず、PPTで作成したビデオは初日に学生のアクセスが殺到し、回線やコンピュータの容量不足で一時止まった。もちろんこのオンライン授業も悪いことばかりではない。通常の授業と異なり、学生が画面を戻し、繰り返し聴けるため、自らの理解のペースで勉強できる利点があり、その成果が期待される。ただこのようなオンライン授業では学びへの強制力が働きにくいと、学生のモチベーションが成績に大きな差を及ぼすと考えられる。いずれにせよ授業形態の変化は、教員、学生の双方に大学の授業の意味を問い直すこととなった。

大学は「教育と研究」の場と言われている。では大学での教育とは何なのか。

昨年までの対面授業で感じていたことは、学生に「授業料を払って受講している意識が低い」ということであった。ましてや「国からの補助を受けている」とは思っていない。予備校の夏期講習であれば、聴きたい授業に受講料を払

て受ける。それだけに教員と学生との間に適度な緊張感が存在するが、残念ながら大学にはない。熱意が、言い換えれば目的意識がある学生が少ないためだと考えられる。(もちろん教員の役割の一つに彼らの目的探しの手助けがあることは承知である。) 大学4年になり、大学院に進み、就職を考える段階になっても、まだ、何をしたいかわからない、という学生のなんと多いことか。多くの成功した人が、「早く自らの将来像を描くことが大事」と言っている。もちろん、意識の高い学生がいないわけではないが、そのような学生は一握りであり、その他大勢の学生との意識の差が広がっていることが問題なのである。

極論すれば、大学教育に求められていることは授業による知識伝授ではない。そのようなものは自分で本を読み勉強できる。社会に出ると、知識をもとに考えることができる柔軟な頭と学ぼうという意欲をもっていることが大事であり、それが鍛えられるのが研究経験なのである。授業は研究室に入るための準備にすぎない。朝から晩まで研究について考える、その経験が社会で役立つ。学生には没頭することができる幸せを感じてほしいと思っている。15年前になる。スイスローザンヌ大学で講演後に学生と夕食をともにしたとき、ある博士学生が自分はパレスチナ出身で、博士号を取得したら(いわば戦時下の)祖国に帰ると自己紹介した。その学生にとって、研究に使える時間がいかに貴重か。そのとき感じた思いが今も忘れられない。一方、大学の教員サイドから見れば、学生が没頭できるテーマを提示できるか、学生との真剣勝負となる。もちろん、最初から結果が予測できる研究をということではなく、提示すべきは「夢」であり、それに向かう熱意を学生にきちんと伝えられるかが大事なのである。学生も教員も、夢をまことにしたいために頑張るのだから。

研究生生活はもう少しで終わる。いま振り返れば、共同研究者であった助教、学生さんとともに、楽しい夢を見させてもらった。ありがたく思っている。

機械システム系学科の近況

機械システム系学科・学科長 堀部 明彦



同窓生の皆様、旧教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和2年5月現在、新型コロナウイルスにより社会の各所において深刻な影響が生じており、厳しい状況となっている同窓生の皆様も多いものと拝察いたします。機械システム系学科におきましても、

大学や工学部の方針のもと学生の入構禁止や教員の原則在宅勤務などの対応をしており、研究・教育に大きな影響が出ております。教育に関してはオンライン講義などに努め、研究についても制限が緩和された際には、遅れを取り戻すことができるよう教職員全員で注力する予定です。

さて、機械システム系学科は、1960年に工学部設立と同時に前身の機械工学科として設立されて以来、工学部の基幹を成す分野として改組を経ながら61年目となりました。現在の定員は入学時160名で3年次編入学にて10名程度が加わっており、機械工学コースとシステム工学コースで約半数ずつ指導しております。来年度より、現工学部と環境理工学部が統一され、より大きな工学部に改組される予定です。学科は工学部全体で1学科(工学科)となり、その中の「機械システム系」となりますが、これまでと同様に基本を踏まえつつ社会のニーズに合うように研究・教育を行ってまいります。また、ここ数年は学生の就職も好調で大半の学生がほぼ希望の就職先に合格する状況です。これも、同窓生の皆様のご活躍による評価の賜物と深く感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響で今後の社会構造が変化する可能性があります。ものづくりの根幹をなす機械

システム系の技術者はその必要性が無くなることはないと考えております。

今後も教職員一同、レベルの高い教育により機械システム系技術者育成に努めるとともに、持続可能な開発目標(SDGs)など大学が掲げる種々の取り組みに積極的に対応し、多くの外部資金を獲得するなど研究の推進にも尽力してまいります。同窓生の皆様におかれましても今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、2019年5月以降の機械システム系学科の人事異動は以下の通りです。

【転出】 富田栄二 教授(2020年3月、現在、中国職業能力開発大学校 校長)

早見武人 講師(2020年3月、現在、北九州市立大学 准教授)

永田靖典 助教(2020年5月、現在、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 特任助教)

【着任】 西 竜志 教授(2020年4月)

磯部和真 助教(2020年4月)

山口大介 助教(2020年4月)

【昇任】 河内俊憲 教授(2020年4月、准教授より)

亀川哲志 准教授(2020年4月、講師より)



2020年1月企業OBと学生の交流会

電気通信系学科の近況報告

電気通信系学科・学科長 金 錫範



同窓生の皆様、ならびに旧教職員の皆様におかれましては、ますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年の同窓会会報の近況報告以後の当学科の状況について報告致します。

まず、最近の本学科の教員の異動についてご紹介致します。数年間にわたる全学的人事凍結の一部

が解除され、令和2年2月に三澤賢明助教(マルチスケールデバイス設計学)が九州産業大学から着任されました。そして、令和2年4月には、竹本真紹教授が北海道大学から、井上良太助教(超電導応用工学)が東北大学から、鈴木弘

朗(ナノデバイス・材料物性学)が日本学術振興会海外特別研究員として研究していたドイツのRWTH Aachen Universityから、王 璉助教(先端医用電子工学)が九州大学から当学科に着任されました。船曳繁之教授(電気エネルギー・システム制御工学)の後任人事として着任された電気機器専門の竹本真紹教授は、新しく「電動機システム工学研究室」を立ち上げることになりました。そして、籠谷裕人講師(情報システム構成学)が数理・データサイエンス教育を補う全学教育・学生支援機構の准教授として移動になり、数理・データサイエンス教育と当学科の学部教育を兼務する小寺雄太特任助教(情報セキュリティ工学)が着任しました。一方、令和2年3月には塚田啓二教授(先端医用電子工学)が定年退職されました。また、七戸 希准教授(電力変換シ

システム工学)が岡山理科大学に、梅谷和弘助教(電力変換システム工学)が東北大学に転出されました。上記のように当学科においては、教員の異動が非常に活発な年になりまして新しく着任された新任教員の先生方には今後の活躍を期待しております。

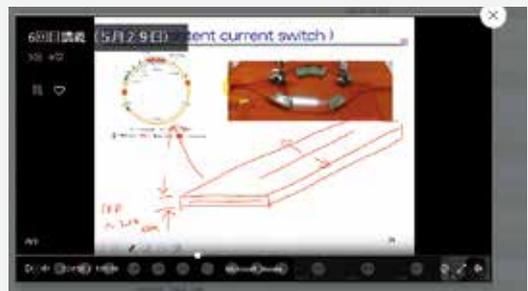
工学部では平成23年度の改組により定員100名の電気通信系学科が設立されました。当初は電気電子工学コースと通信ネットワークコースの2コース制でしたが、平成29年度より電気通信系分野全体を幅広く学習できるカリキュラムに編成し直し3コース制(エネルギー制御コース・知能エレクトロニクスコース・ネットワーク工学コース)に移行しました。そして、大学の競争力向上の一環として、来年度から新生「工学部」が誕生することになり、既存の工学部の4学科と環境理工学部の4学科が統合され、新しく四つの系と10コースで構成される定員610人の新しい「工学部工学科」がスタートします。電気通信系学科は、既存の工学部の情報系学科と環境理工学部の環境数理学科と統合され、入学定員190人の「情報・電気・数理データサイエンス系」として生まれ変わります。また、「情報・電気・数理データサイエンス系」の中には4コースが設けられ、既存の電気通信系学科は「ネットワーク工学コース」と「エネルギー・エレクトロニクスコース」として再編されます。

教育と研究の両面においては、岡山大学では60分授業4学期制を平成28年度に開始しました。2単位の講義は90分で1週間に1回が一般的でしたが、60分×2の120分(途中で10分間の休憩有)で1週間に2回となりました。しかし、この60分講義が見直され、来年度からは50分講義に変更されることになりました。また、IoT、ビッグデータ、AI、セキュリティ関連の講義が積極的に開講され、岡山大学の「次世代研究拠点」として選定されました「IoT基盤の信頼を支えるフィジカルセキュリティシステムの構築」と「超高速電子線プローブによる広帯域光励起下の動的構造解析と新機能・新物質の探索」などの研究も引き続いて活発に行われています。特に、今年の1月から問題となっている新型コロナウイルスについては、全学レベルの対策本部が設置され

まして感染予防と拡散防止に大学全体が全力を挙げて務めて来ました。4月から5月末までの1学期の全ての講義は対面講義が禁止され、オンライン講義に移行しました(6月現時点では、2学期までオンライン講義が原則になっています)。オンライン講義は、以前から岡山大学全体で使用してきましたMoodleを活用して講義資料や講義映像を学生に提供すると共に、大学が包括契約を結んでいるMicrosoft社のTeamsによるリアルタイム講義も行われております。Teamsによるリアルタイム講義などは、講義を録画しておくことも可能ですので欠席した学生や受講生は講義映像を何回も繰り返し見ることにより講義内容の理解度を上げることが出来ます。

学生の就活状況につきましては、移動制限や対面面接の禁止によって殆どの面接がオンラインに切り替わるなど、学生も企業も工夫をしながら対応している状況です。昨年に続いて志願倍率は芳しくない状況が続いておりますが、新工学部体制で改善されることを期待しております。

本年度は、新型コロナウイルスにより岡山大学も当学科も非常に厳しい状況に立たされておりますが、教職員と学生が力を合わせて克服していくつもりでおりますので、皆様の変わらぬ御協力と声援をお願い申し上げます。当学科の動向などについては学科のホームページを御参考にして頂きたいと思っております。また、今年のオープンキャンパスは既に中止が決定されましたが、10月17日開催予定のホームカミングデイは実施されることを祈っております。実施される場合は是非ともお立ち寄りください。今後ともよろしくお願い致します。



Microsoft Teams によるリアルタイムオンライン講義の再生映像例

情報系学科の近況

情報系学科・学科長 高橋 規一



同窓生の皆様ならびに旧教職員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より様々なご支援を賜りありがとうございます。情報系学科の近況についてご報告いたします。昨年度から今年度にかけて教員数名の異動がありました。まず、令和元年7月に新妻弘崇助教が大阪大学に転出されました。次に、令和2年4月に諸岡健一教

授が九州大学より、上野史助教が電気通信大学より着任され、Zeynep Yücel助教が岡山大学ウーマン・テニユア・トラック教員から昇任されました。また、昨年度、特別契約職員教授(特任)として講義をご担当いただいていた尺長健名誉教授は令和2年4月に日本女子大学に転出されました。現在の教員構成は、教授7名、准教授3名、講師3名、助教7名、助手1名となっています。

研究および地域連携についても様々な動きがありました。情報系学科は平成29年に「岡山大学AI研究会」を設立し、これまでに5回の研究会を開催してきました。毎回、学内

外から多くの方々のご参加をいただいています。また、岡山県の支援により設置された「おかやまIoT・AI・セキュリティ講座」および「おかやまAI・セキュアIoT共創コンソーシアム」や、データサイエンス応用研究の推進を目的として設置された「サイバーフィジカル情報応用研究コア」においても、情報系学科の教員が運営に携わっており、AI・ビッグデータ・IoT・セキュリティ等に関連する情報技術の更なる発展とそれによる地域貢献を目指して活動しています。

教育に関しては、新型コロナウイルスの影響で今年度の第1学期の講義がすべてオンラインで行われることになりました。グループワークが必要な1年生科目「コンピュータ科学基礎1」は第2学期に延期されましたが、その他の科目は担当の先生方の努力によって大きな混乱もなく順調に進んでいるようです。全学生の建物への立ち入りが禁止となっていますので、研究室の活動も大きな制限を受けていますが、自宅にいる学生達とオンラインゼミを行うな

どして対応しています（写真は私の研究室で行っている学部4年生とのゼミの様子です）。

社会における情報技術の重要性はますます高まっているように思います。5年ぶりに就職担当をしていますが、前回より格段に多様な業界から求人票が届いています。今春の大学入試でも、情報系学科の一般入試（前期日程）は高い志願倍率となりました。令和3年4月に設置予定の新生工学部では、情報・電気・数理データサイエンス系の情報工学コースとして、引き続き情報工学の教育の活性化に向けて努力を続けて参ります。同窓生並びに旧教職員の皆様には引き続きご支援を頂ければ幸いです。末筆ながら皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



化学生命系学科の近況報告

化学生命系学科・学科長 後藤 邦彰



昨年度は平成から令和に改元された年でした。書類の中には平成表記と令和表記が混在し、一部には西暦年度に表記が変わった書類もありましたが、いずれにしても予定された変更で、5月を起点とした変化では、それほど大きな混乱なかったように思います。その改元の年に具

体化した当学科の大きな変化は、昨年度学科長・坂倉先生が書かれていた学部教育の見直しに関する変化です。現在はまだ予定の段階ではありますが、すでに工学部のホームページには新生「工学部」として紹介されており、パンフレットも公開されています。この新生工学部は工学部と環境理工学を統合再編するもので、4つの系と10のコースを持つ中四国最大規模の学部になります。化学生命系学科は、環境理工学部環境物質工学科と統合し、新たに「化学・生命系」となります。この系には「応用化学コース」と「生命工学コース」があり、学生定員は170名の大きな系となります。この統合に伴い、カリキュラムも刷新しました。その詳細は、次年度の学科長が記述することになると思います。

この新生工学部への変化は、令和元年度に始まったものではなく、その前から多くの議論を重ねて昨年度やっと形になったもので、ある意味予定された変化でした。しかし、令和2年当初からは、新型コロナウイルス感染拡大により全く予想していなかったいくつかの変化が起きました。その一つが例年3月25日に開催される学位授

与式の中止でした。その後も感染の影響は広がり、入学式の中止、講義開始の延期の後、政府による緊急事態宣言発出に至り学生は登校禁止、教職員は在宅勤務となりました。この時の工学部1号館玄関が掲載した写真です。通常は学生の日頃の活動がわかる写真を掲載するのですが、今年に限っては、この写真が昨年度末からの状況を最も反映した写真であると思います。この原稿を書いているのは5月の終わりですが、やっと緊急事態宣言は解除され、大学に学生が戻りつつある状況になっています。

なお、本学科での前会報発刊以降の人事異動は、全て令和2年3月31日付で、高井和彦教授が定年退職、早川一郎准教授が日本大学文理学部に教授として異動、中西真助教が本学安全衛生推進機構に異動されました。現在、後任人事を申請しており、次年度以降の学科体制作りに向けて動いております。この人事も含め、新型コロナ対策のための新しい生活様式、新生工学部の立ち上げと、今年度は前向きな変化の年にしたいと考えております。今後も工学部ならびに化学生命系学科の発展にご支援、ご協力をいただけますようお願いいたします。



化学生命系学科 緊急事態宣言下の工学部1号館

岡山大学工学部開学から1号館建設まで 写真集

岡山大学工学部

岡山大学工学部は、昭和35年(1960年)4月に機械工学科、工業化学科(各定員40名)の2学科で発足しました。全く母体を持たない工学部が誕生したのは全国で初めてでした。



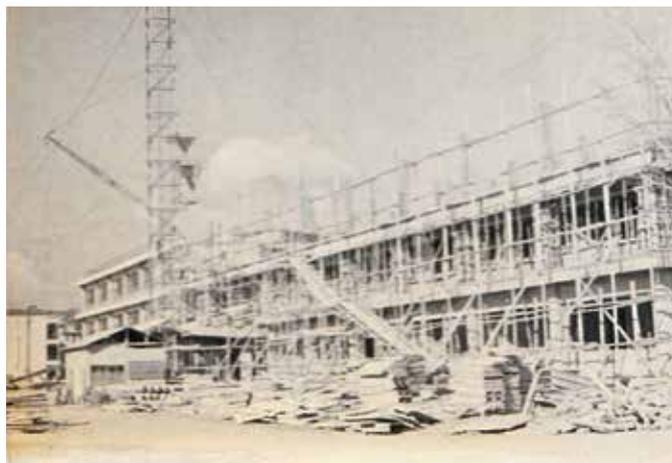
岡山大学工学部開学並びに入学宣誓式々場



来賓祝辞 近藤鶴代代議士



工学部1号館の建設地 理学部物理、数学教室跡地



工学部1号館の建設 昭和36年(1961年)5月着工



工学部1号館の竣工 昭和37年(1962年)3月

■ 機械工学科関係の写真は、機械工学科1期生 河野博文様より、また、開学式、工学部建物建設、工業化学科関係の写真は、工業化学科1期生 井上堅太郎様よりご提供戴きました。

工学部第一期入学生



機械工学科 一期生同窓会(S49.9.22 於 石山花壇)

機械工学科



山田敏郎教授(第3代工学部長)
送別会 機械工学科一期生
(S43.3.17)

工業化学科



物理化学及び化学工学 高橋照男教授研究室



無機工業化学 高橋克明教授研究室



有機工業化学 武田 晃教授研究室



有機材料化学 物延一男教授研究室

フェニックスの会2019 鳥居 滋先生 米寿のお祝いの会

令和元年7月13日(土) ホテルグランピア岡山・フェニックスの間に於いて開催された。

鳥居先生は1932年6月25日のお生まれで、2020年に八十八歳のお誕生日を迎えられる。古来、わが国では長寿のお祝いは数え年で行うのが慣例で、2019年が米寿のお祝いの年に当たる。この米寿のお祝いにあたり、先生の数々のご業績を讃え長年のご指導に感謝の意をあらわすとともに今後の益々のご健康とご発展を祈念する事業の一環として、同窓生が一堂に相集う会“フェニックスの会2019”を開催した。

フェニックスの会は岡山大学工学部・有機工業化学研究室、有機電子反応化学研究室、分子変換化学研究室、ヘテロ原子化学研究室の同窓生、研究生、留学生、旧職員の親睦会で、会員総数480名。鳥居先生の各種学会賞、紫綬褒章受章や瑞宝中綬章叙勲などのお祝い事や、ご退官、ご長寿のお祝いなどにあわせて2～3年に1回程度の間隔でほぼ半世紀に亘って開催してきた。

当日は鳥居先生のご家族を含めて108名の参加者があり、11時30分に集合し記念写真撮影、12時から祝賀会が始まった。同窓生からの祝辞や記念品贈呈、鳥居先生からのお言葉があった後、第3期生3名による乾杯の発声で開宴した。スペイン、タイ、シンガポールなど海外で活躍中の同窓生から寄せられた祝辞の披露や、卒業年度ごとの近況報告などがあり予定した2時間半があつという間に過ぎ盛会裏に祝賀会を終宴した。

ホテルグランピア岡山のスカイラウンジに用意した二次会会場には80名余の参加者が詰めかけ、名残を惜しみながら大いに飲み且つ大いに語り旧交を温めた。鳥居先生やご家族も二次会までお付き合いいただき、第3期生から第54期生の現役学生までの50歳差の同窓生が相まみえての懇談で大いに盛り上がった。夕刻、次回のフェニックスの会での再会を約して散会した。

文責 第5期 田中



2019年度 工学部学科同窓会活動報告

(工学部同窓会報告会 (2019,10,26) において報告されたパワーポイントを紹介しています。)

機械システム系学科同窓会

機械システム系学科

役員

- ・学外幹事 尾崎 公一 (H2修), 松岡 大樹 (H22卒)
- ・報告者 大西 孝 (H18卒, 機械系 学内幹事), 永井 伊作 (H7卒, システム系 学内幹事)

活動概要

1. 両コース共同の新生入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援
機械工学コース: 「機械系エンジニアの歩き方」の後援
システム工学コース: 学習環境, 就活環境向上のための寄贈
3. 卒業生による同窓会開催への支援 (2件/H29年度)

1. 「機械系エンジニアの歩き方」の後援

- ・機械系卒業生が集い、エンジニアとしての働き方を在学生へ紹介
- ・同窓会主催の懇親会を開催し、相互交流を促進
- ・卒業生と在学生をつなぎ、両者の役に立つ企画として好評

両年度の参加人数

2018年度	101名
2019年度	127名
2018年度	101名
2019年度	127名
2018年度	101名
2019年度	127名
2018年度	101名
2019年度	127名
2018年度	101名
2019年度	127名



新やかな雰囲気
交流会
懇親会で先輩のエンジニアから激励を受ける在学生

本年度の実施予定: 2020年1月17日(金) 於: 岡山大学 津島キャンパス

2. 学習環境, 就活環境向上のための寄贈



液晶プロジェクター・スクリーン
タブレット
無線AP

現役学生のための寄贈活動

- 超短焦点型液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈 (2013年)
- 就職情報掲示のための掲示板 (2015, 2018年)
- 無線アクセスポイント (AP) の設置 (2019年)

電気通信系学科同窓会

電気通信系同窓会活動報告

活動概要

1. 同窓会等開催補助
2. 行事開催



1. 同窓会等開催補助

年度	件数
平成27年度	8件
平成28年度	9件
平成29年度	4件
平成30年度	6件
令和元年度	4件(予定)



2. 開催行事

卒業生OB・OGとのキャリア形成のための意見交換会

日時: 2018年10月20日(土) 11:00~13:30

場所: 工学部5号館 第15講義室

参加人数: 41名 (卒業生7名, 在学生27名, 教員7名)

・就職活動が本格化する前に学内で開催

・電気通信系学科卒業生が参加し、在学生へアドバイス

・内容は卒業生による講演と質疑応答、及び、懇話会

・目的

■ 業務内容や研究について学生に具体的な情報を提供

■ 先輩後輩による先輩も進む情報交換

参加者(学生)

年度	卒業生数	伊田数
2015	8名	64名
2016	7名	58名
2017	7名	28名
2018	7名	34名

2. 開催行事(続き)

卒業生交流会

日時: 2019年2月12日(火) 9:00~18:00

場所: 藤原科学研究所 大講義室 本館

・電気通信系学科の卒業生が参加し、西尾倉企業を訪問

・大講義室に計ったブースでの各企業の紹介、及び、個別相談(1社30分)

・ブース数: 46社, 個別相談企業数: 34社



ブースでの企業紹介

個別相談

情報系学科同窓会

情報系学科同窓会活動報告

情報系学科助教 佐藤 将也

役員

- ・幹事(外) 池本 文典 (内山工業(株), 平3卒)
- ・幹事(内) 佐藤 将也

活動概要

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告
2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告

- 研究室訪問: 教員と情報系学科OBとの交流の場
- 研究紹介イベント: ポスター形式で研究室の活動内容を紹介
- 「OB、現役生、教員の交流イベント」
・情報系学科長による学科紹介
・情報工学科OBによる講演会 賀清剛氏, NTT西日本 2006年卒



情報系学科イベントの様子
(左) 研究紹介イベントの様子, (右) OB講演会の様子

2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

■ 情報系学科のトピック

- 大型放射光施設 SPring-8 と X線自由電子レーザー施設 SACLA 見学 (2019年9月30日)
- 情報系学科3年生の授業の一環で実施

化学生命系学科同窓会

化学生命系学科同窓会活動報告

役員

- ・共同代表 西田 良祐 (S58卒, 化学系), 井口 勲 (S46卒, 生命系)
- ・報告者 内田 哲也 (H4卒, 化学系) 幹事(学内), 二見 淳一郎 (H6卒, 生命系) 幹事(学内)

活動概要

1. 卒業生によるキャリア支援セミナー (学科と共催)
日時: 令和元年10月25日(土) 10:00~12:00
場所: 岡山大学工学部1号館大講義室
2. 総会 日時: 令和元年10月25日(土) 14:30~15:00
場所: 工学部1号館第3講義室
3. 卒業記念集合写真の撮影と配布

1. 卒業生によるキャリア支援セミナー

- ・卒業生による在学生への講演会, 学生との懇親会
- ・昨年度から学科と共催
『表面に顔を出さずにつけるお仕事〜若手少子のおはなし〜』
林 崇徳 氏 (日本パーカライジング(株) 倉敷事業所勤務)
<2017年度第14期-第15期 工学(小野)研究会>
- 『進む実力のうち... ~私の研究人生~』
石田 昌義 氏 (近畿大学医学部内産科医学教室・助産)
<1999年度第14期-第15期 工学(大田)研究会>
- 『どこに就職するか, 就職して何をするか ~結局思い通りにはいかないもの~』
亀山 章 氏 (ベプテスター(株) 代表取締役社長)
<1982年度第14期-第15期 工学(品田)研究会>
<1982年度第14期>

2. 卒業記念集合写真の撮影と配布 (412名参加)

- ・卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布



平成30年度卒業生の一刺

平成30年度卒業生の一刺

その他
卒業生連絡先の集計と管理



株式会社シギヤ精機製作所 技術部 開発課

小谷 拓也

大学院自然科学研究科機械システム工学専攻修了
(14年3月)

私は2014年3月に大学院自然科学研究科機械システム工学専攻（機械系）を修了し、株式会社シギヤ精機製作所（以下、シギヤ）に勤務しています。シギヤは広島県福山市に本社工場を置き、高精度な円筒研削盤を中心に万能研削盤・専用機などのものづくり企業の根幹とも言える金属工作機械を国内外に製造販売しています。円筒研削盤は円筒形の精密部品の外周をといしと呼ばれる工具で除去することにより、精度よく部品を加工する工作機械です。円筒研削加工に求められる精度は1 μ m（髪の毛の1/100）もしくは0.1 μ m単位で、自動車、電機、一般機械、ロボットなど様々な分野の精密部品の仕上げ工程でシギヤの円筒研削盤が活躍しています。

私は入社後、新人研修を経て技術部開発課に配属されて今日まで業務を遂行してきました。開発課では新商品の設計、要素技術の開発などを担当しています。私の所属するチームで設計した機械の一つに高速CNC偏心ピン研削盤GPEL-30B.25があります。エアコンなどの圧縮機に使用される偏心ピンシャフトをターゲットとし、世界トップレベルの高速、高精度加工の実現を目指して開発されたGPEL-30.25を、高い加工精度を維持したまま、より多種多様な部品（例えば、精密減速機に使用される偏心ピンシャフト）の加工に対応できるようにマイナーチェンジされたのがGPEL-30B.25です。GPEL-30B.25はシギヤで開発した多数の要素技術を搭載しており、その完成度の高さから2019年度砥粒加工学会技術賞を受賞しました。今後販売が広まれば、私が携わった機械が加工した部品が組み込まれたエアコンが皆様の家庭に届くかもしれません。

私は開発設計だけではなく、3D-CADの導入（2D-CADからの移行サポート）や環境構築などの業務にも取り組んでいます。現在、シギヤで開発される新商品は3D-CADを活用して、CAE解析などを駆使して高度な設計がなされています。今後は生産設計（シギヤで商品として販売される製品の9割以上はベースマシンに対してカスタマイズされます）で既存の2D-CADから3D-CADへの移行を推進しています。ただし、3D-CADをただ導入するだけでは2D-CADと比較して立体的に設計図が描けるツールでしかありません。

3D-CADを導入して設計者の単純作業やルーティンワークを自動化することで、3D-CADの効果を高めることが期待できます。また、3D-CADの特徴として、2D-CADと比較してもものの形を認識しやすい（2D-CADで作図された図面を読み取るには相応の能力が必要）ため、シギヤでは新人研修（文系出身者も含む）やインターンシップで3D-CADを活用しています。

私の業務を中心に職場紹介をさせていただきました。おそらく通常の会社の宣伝やリクルートと違った切り口でご紹介できたのではないかと思います。円筒研削盤は工作機械業界の中でもニッチな分野ですが、工学部同窓会のOBOGの皆様、これから就職される学生の方々に少しでもシギヤの名前を覚えていただければ幸いです。シギヤはこれからもお客様のニーズに応えるべく、時代を先取りした製品開発、質の高いビフォア・アフターサービスに努めて参ります。



最新の高速CNC偏心ピン研削盤GPEL-30B.25
(2019年度砥粒加工学会技術賞)



インターンシップや研修で3D-CADを活用



岡山県警察 刑事部 科学捜査研究所

金嶋 祥子

大学院自然科学研究科物質生命工学専攻修了
(13年3月)

私は岡山大学大学院自然科学研究科の博士前期課程を修了後、民間企業への就職を経て、現在は岡山県警察の科学捜査研究所、いわゆる科捜研で勤務しています。岡山県警察は警察本部と県下の22警察署で構成され、大半が警察官ですが事務や技術の一般職員も在籍しています。科捜研は大半が技術職員で構成され、捜査一課や鑑識課とともに警察本部の「刑事部」に所属しています。

科捜研の業務は、大きく分けて3つあります。1つ目は鑑定・検査です。犯罪現場で採取された様々な証拠品を科学的に分析する業務で、日常業務の大半を占めています。検査の結果は鑑定書としてまとめ、裁判において重要な証拠として採用されます。ときには鑑定人が証人として法廷に立って証言を行います。

2つ目は指導・助言です。複雑かつ多様化した現代社会で発生する様々な事件、事故について、鑑定技術の専門家としての立場から警察官に意見を伝えます。事件現場に臨場し、鑑識や捜査活動を支援することもあります。

3つ目は研究・開発です。日々生まれる新たな犯罪への対応や、日常業務の中で生じる問題点の改善を目指し、新しい鑑定方法の研究・開発を行っています。研究成果は各種学会での発表や、論文として結実します。仕事の傍ら、大学院に進学し博士号を取得する人も多くいます。

岡山県警察の科捜研は大きく分けて、生物、化学、物理、文書、心理の5つの係があります。私の所属する化学係では、薬毒物や工業製品などの分析を行います。例えば、中毒や不審死の事件では飲食物や血液、吐しゃ物、臓器などから薬毒物を検出し、違法薬物事件では薬物そのものや摂取した人の尿、血液、毛髪などから違法薬物の成分を検出します。また殺人、強盗などの事件では、粘着テープ、繊維片などの工業製品や土砂、植物片などの天然微細物を分析し、メーカーの特定や種類、成分の分析などを行います。その他にも、火災事件では火災現場の燃え残りから灯油やガソリンなどの有無を調べる、交通事故では現場に残った塗膜片などから車種を割り出すなど、あらゆるものが鑑定対象になります。

科捜研は、現場に残されたわずかな証拠品について、世の中に存在するあらゆるものを対象として分析を行

う、分析分野の中でも特殊な仕事であると思います。それと同時に、自分の鑑定結果が人を裁くことに直結する、非常に大きな責任を負う仕事でもあります。科捜研に拝命されて3年が経過しましたが、まだまだ学ぶことばかりで勉強の毎日です。しかし、自分が身につけてきた知識を駆使して犯罪立証に貢献することも、新規鑑定手法へのアプローチにより分析技術の発展に貢献することも、非常にやりがいのある仕事です。

拙筆ではありますが、科捜研について少しでも皆様の関心が深まれば幸いです。



工学部同窓会岡山支部は、岡山県とその近辺在住のOBを中心に活動しています。月例の親睦会や各種イベントが企画され、学科、年代を超えたOBの親睦と交流の場となっています。また、講師派遣等の大学教育の支援も行っています。支部内だけでなくどの地域からの参加も歓迎しています。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

2019年度の主な活動

■ 親睦行事

1. 定例親睦会

- ① 毎月第4木曜日、ロイヤルホテル等のレストランでバイキング昼食懇談会 (1,30~1,500円/回)。
- ② 懇談会に合わせて開催されたイベント
1月「津島遺跡見学」(岡山県立総合グラウンド内)
9月「岡山理科大学恐竜学博物館見学」と展望レストランランチ

2. 拡大親睦会

- ① 見学会：
5月 法界院（岡山藩主池田家の崇敬を受けた真言宗の単立寺）見学、半田山植物園散策（弁当持参）。
- ② 古代吉備遺跡の探訪：
11月「総社秦の郷 一丁グロ古墳群探訪」
同古墳は総社地区高梁川を眼下にみる山上にある古墳で、古墳時代前期前半に築かれた。
- ③ 納涼会：8月 飲み放題バイキング（会費：3,800円）
ピュアリティまきびレストラン
- ④ 忘年会：12月 飲み放題バイキング（会費：3,800円）
ピュアリティまきびレストラン

3. 支部総会 6月 ピュアリティまきび

特別講演会：講演者 則次俊郎氏（岡山大学名誉教授（工学系）、美作大学地域生活科学研究所長・特任教授、生産機械工学科S47卒）講演題目：「ロボットと人間」

懇親会（会費 5,000円）

懇親会では和やかな交流が行われ、還暦・古希・喜寿・傘寿の方にはお祝いの岡大ブランド酒「おお岡大」（4合瓶）が贈呈されました。

■ 工学部の教育支援

工学部・経済学部共同講義「実践コミュニケーション論講座」への講師2名を派遣しました。http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/outline/

■ 広報活動

- ① 工学部同窓会岡山支部HP: <https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>（会員専用欄 パスワード okadaieng）
- ② 岡山支部メールマガジンの発行（月刊）：支部活動の案内、報告、また、執筆者や会員からの趣味や日常の活動、エッセイ等の記事が掲載され交流の場となっています。配信希望の方は、同窓会事務局までメールで連絡下さい（ofst@cc.okayama-u.ac.jp）。また、岡山支部HPでも閲覧できます。



半田山植物



岡山理科大学恐竜学博物館見学



岡山支部総会参加者



支部総会後の懇親会

関西支部は発足してから6年目を迎えます。令和元年度の活動報告は次の通りです。

関西支部の令和元年度の総会を、8月25日に大阪新阪急ホテルで開催の岡山大学 Alumni関西支部設立総会・懇親会に引き続いて行いました。今年度は、岡山大学設立70周年で、Alumni設立5周年にあたり、Alumni関西支部は5番目の支部になります。設立総会には、岡山大学と9学部より全員で110名の参加者がありました。

関西支部からは、岡山大学の旧教員の同志社大学石原名誉教授、岡山大学宮崎名誉教授と、工学部同窓会の代表幹事の酒井名誉教授を含む岡山支部からの参加者3名があり、全員で31名が参加しました。設立総会では、Alumni小長会長から開会の挨拶、槇野学長から岡山大学の現状についての講演がありました。

関西支部の令和元年度の新春懇親会は2月22日に京都市の「がんこ高瀬川二条苑」で開催しました。この会場での新春懇親会は関西支部発足後3度目です。

「がんこ高瀬川二条苑」の建物は、角倉了以が別邸として高瀬川源流に造ったもので、明治の元勳である山縣有朋の別荘としても使用されたことのある由緒あるものです。

懇親会には、新型コロナウイルス感染の影響で、開催間際に参加辞退された方もいましたが、同志社大学石原名誉教授を含めて、合計23名が参加しました。

懇親会開催前に、道を挟んだ西側に隣接する島津製作所の「創業記念資料館」の見学を行いました。同社の明治初期以降の数々の開発品の展示説明にあつという間に、予定時間が経過しました。資料館内で記念写真を撮影後、懇親会会場に移動しました。

宴席の準備が整って、支部長の開会の挨拶、石原名誉教授の乾杯の音頭で懇親会をスタートしました。初めての出席者もあり、近況報告と学生歌の斉唱などで大いに盛り上がりました。

令和3年度の総会は、Alumni（全学同窓会）の関西支部総会開催で予定していましたが、新型コロナウイルス感染問題で中止になりました。開催日を近日中に設定の予定です。決まりましたら改めてご案内しますので、同期生をお誘い合わせて参加をお願いします。

詳細は世話役（大森勝（電気2期）：momoritakatsuki0822@gmail.com）まで問い合わせをお願いします。



令和元年8月の総会・懇親会出席者



令和2年2月の新春懇親会参加者

岡山大学・工学部卒業生の皆様、関東支部から笹川廣太郎が近況報告いたします。今年(2020年)の年初から燎原の火のごとく新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威拡散し5月現在では日常生活が一変してしまいました。3密にならぬようにビジネスの世界でもあつというまにテレワーク出来る業態では常態化しており、飲み会までネット呑み会というありさまです。首都圏の公共交通機関では人が激減しラッシュアワーは無くなりました。その後5月25日以降は緊急事態宣言も解除され街にも人が増え始めています。

さて、そのような社会の変化にあわせて岡山大学工学部では2021年度から環境理工学部と統合になり新制工学部が誕生する予定です。関東支部でもそのイベントを先取りして本年5月に関東在住の両学部卒業生の親睦会を企画していましたが、感染症拡大のため、残念ながら開催を見送る結果となりました。第2波・第3波を想定しつつ再度企画したいと考えています。

写真は、2019年7月27日に開催された岡大全学同窓会alumni東京支部総会のシーンです。(2019年)は新制岡山大学創立70周年記念を兼ねて開催されました。

本年度(2020年度)は予定を変更し9月開催になる見込みです。

また、毎年11月には学部を横断してゴルフコンペも定着しています。

私は昭和45年入学ですが、当時の生産機械工学科卒業生の集いもあります。おそらく同期生の集いやネットワークも多々あると思います。ぜひ皆様におかれましては工学部同窓会会報や同窓会ホームページ上での「コミュニティー広場」も開設されましたのでどしどし寄稿されるようお願い申し上げます。

2020年5月28日



電気工学科4期生、当年73歳です。高度経済成長期に大学を卒業し、特に電気技術者は売り手市場でした。私は実家に近い求人のない会社に応募し、失敗したので、やや遅れてニチュというフォークリフトメーカーに就職しました。ゼミの姫井教授が京大生時代、企業実習され、岡大2年先輩の山谷さんがおられ、中田教授の京大電気同級生もおられる縁で紹介されました。面接に行くと中田教授の同級生の方と面談で、即採用が決まりました。

この世に「親子の縁」で生まれ、色々な縁に助けられました。人生の三つの貯金「①金、②知識、③人脈」のうち、今までで一番効果があったのが ③人脈の貯金でした。

ニチュでは、先生方の縁もあり、優遇され、色々な講演会や学会に行かせて頂きました。在職中は開発部門中心に活動しました。自慢話を紹介しますので、皆様が活動されるうえで何かご参考になれば喜びます。

ニチュでの「電気自動車・無人搬送車・無線LANシステム」などの開発から61歳で京都EV開発株設立し、「東京消防庁レスキューロボット用リチウム電池・JR西日本向けレールカー・東京電力エネルギーランド向け電気自動車・古都風電気自動車開発・国土交通省事業や環境省事業参画」などを経て、現在は将来年金を支えてくれる子育て世代支援の社会貢献「子ども科学教室・子ども食堂」を中心に活動しています。



ソウルオリンピック マラソン中継用EV

1. ニチュ (現三菱ロジネクス) における主な活動実績

① ソウルオリンピック マラソン中継用電気自動車5台製作指導 (起亜産業に約3か月駐在、設計開発)

② ソーラーカー開発

第1回オーストラリアソーラーカーレース参加 (日本テレビチームのモータ・コントローラ担当、ドライバー夏木陽介他、総費用2億円)



第1回オーストラリアソーラーカーレース

③ EVの開発・納入約200台

京都EV開発株式会社

会社概要

本社所在地

〒610-0117 京都府城陽市枇杷庄出羽7番地の6

工場所在地

〒610-0117 京都府城陽市枇杷庄知原11番地の2

資本金 777万円

設立 2008年7月8日



1人乗り電気自動車

最高速度60 km/h
市税50ccバイク 相当



4人乗り電気自動車

最高速度80 km/h
軽4輪



リチウム電池 25.9 V, 40 AH



リチウム電池 51.8 V, 240 AH



充電器

- 1、家庭用单相100 V 入力
51.8 V, 22 A 出力
- 2、单相200 V 入力
51.8 V, 70 A 出力 切替式

2. 京都 EV 開発㈱における活動実績

- ① 東京消防庁レスキューロボット用リチウム電池納入 (約 1 千万円)
- ② 大阪活力グランプリ受賞電気自動車開発 (半年間日本テレビ社員が駐在で取材)



救出ロボット(ロボキュー)



操作台概要



要救助者:操作台概要



新旧救出ロボット

東京消防庁 救出ロボット (ロボキュー)



あっぱれEVプロジェクトの電気自動車Meguru

最後に、定年記念祝賀会に主賓として招待して頂いた船曳繁之先生に感謝を申し上げると共に、記憶に残る言葉を紹介します。① 今、見えていることは目の機構を通して見ている。本当は違うかもしれないと疑うことも開発には必要。(どなたの講演かは忘れましたが)、② すぐやる・必ずやる・出来るまでやる (日本電産永守社長)、③ 面白おかしく研究開発 (堀場研究部長)、④ アメーバー経営 (京セラ稲盛社長当時)。5G・6Gの時代が来ようとしています。①項のように、目で見ていると同様な状態が人工的に作れる時代が来ようとしています。時代が大きく変わりますね。日本のメーカー・若者に頑張ってもらいたいですね。少しでも支援できればよいのですが。

高齢者の生活は、気遣いがほとんど必要なく、気楽に好きなモノづくりをしながら将来の年金を稼いでくれる「子ども支援」を中心に活動しています。本年は、京都府補助金事業3件、民間財団助成金3件などを受託して活動しています。



大阪活力グランプリ受賞電気自動車開発

- ③ (公財) 関西文化学術研究都市推進機構 地域連携マナージャー (H22～H26)
 - ・けいはんなエコシティ推進プラン委員
 - ・環境省事業 (ごみ処理発電)
 - ・国土交通省事業 (カーシェアリング) などに参画

3. 現在の主な活動

- ① 子ども科学教室

塾長：石原好之同志社大学名誉教授 (岡大→同志社)
偶然京都駅でお会いし、ニチュ時代から現在までご指導頂き、毎月子ども食堂開催と併せ、科学のお話をして頂いています。

- ② 子ども食堂

3年前より将来の年金を支える「子育て家庭支援」を目的に活動しています。



「子ども食堂ゴリゴリ」の出發

寄付者一覧

工学部同窓会会員の皆様からご寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科

昭和39 大久保 浩 司
高丹下 桑 敏
中松井 林 孝
山川 原 信
杉沼 田 一
藤御手 洗 政
近大 藤 正
佐難 森 健
森山 本 照
渡邊 本 照
小清 田 信
田福 宮 信
江香 原 克
佐長 藤 正
二藤 宮 和
三岩 廣 一
廣市 木 重
木芝 杉 陸
仲松 井 信
松渡 岡 秀
大賀 大 悦
三宅 本 雄
樋岡 城 二
江島 康 一
伊藤 藤 和
小島 藤 一
小立 小 正
植大 野 康
草田 方 茂
西原 垣 篤
近藤 末 光
末原 松 泰
松正 月 俊

生産機械工学科

昭和43 亀山 嘉
46 枝廣 俊
久谷 松 修
47 岡崎 原 道
木坂 澄
小田 淵 敏

永西 井 誠
48 則次 尾 照
松井 高 正
高山 山 裕
浅笹 野 一
中花 川 嘉
佐砂 房 廣
長中 藤 辰
53 片尾 川 慎
54 岡尾 川 信
55 太武 田 芳
56 宮武 田 伸
57 中武 田 郁

応用機械工学科

昭和58 杉山 雅彦

大学院 修士 機械工学専攻

平成4 孫黎 磯

大学院 博前 機械システム工学専攻

平成30 中川 陽平

電気工学科

昭和41 馬場 啓
43 原秋 山 宣
網伊 賀 康
44 板谷 村 修
岡安 野 義
46 石井 橋 省
寺土 師 秀
服部 田 正
横足 立 吉
47 石塚 井 良
大高 中 芳
三矢 吹 清
48 湯竹 浅 英
49 福坪 田 芳
51 山田 佳
52 勝高 林 博
53 鳥前 村 浩
木豊 岡 康
56 倉近 藤 隆
57 波多 野 和
59 佐栗 古 惠
60 栗橋 原 本
61 橋本 誠

電子工学科

昭和47 浅野 光 雄
48 中塚 三 健
中山 山 崎
49 小常 郷 貞
51 松山 広 隆
平松 山 聖
52 黒杉 下 一
53 杉川 井 雅
54 花房 田 久
55 花房 田 浩
56 花房 田 隆
57 花房 田 隆
平成2 花房 田 隆

電気電子工学科

平成3 田井 政 博
5 野代 武 典
9 岡智 元 隆
10 越北 野 俊
11 野平 昌 宏
15 平加 光 宏
18 加龜 幸 友
19 龜山 幸 友
25 山野 幸 友

工業化学科

昭和39 菊地 俊 二
40 坂東 靖 夫
41 松林 浩 宏
42 浅沼 美 明
43 安井 田 治
植宮 下 明
44 横太 田 一
45 赤井 井 浩
46 白藤 原 二
47 藤野 上 夫
48 藤井 口 勉
49 井小 田 一
50 中難 林 勝
51 日下 部 正
52 橋前 森 信
53 岩屋 月 耕
54 大谷 浦 敏
55 松浦 村 佳
56 稲作 本 義
57 大小 熊 義
58 逢澤 野 博
59 上田 田 吉
60 太橋 部 信
61 渡部 信 一

53 徳山 丸 裕 晃
4 磯本 幸 市
小野 林 彦
4 磯本 幸 市
馬場 登 之
4 植木 智 也
5 越智 清 介
5 津木 由 文
中崎 村 義 造
福村 田 夫 彦
森菅 上 裕 幸
上川 田 浩 時
沼田 田 端 時

合成化学

昭和45 片鎌 山 光
46 酒井 木 史
47 吉川 井 貴
48 妹尾 川 誠
49 今田 本 雅
河藏 本 雅
近藤 藤 孝
渡片 山 純
名木 田 正
49 池田 田 昭
50 高北 山 正
51 高竹 内 和
53 片山 島 一
54 多藤 子 剛
55 橋本 坪 淳
56 大三 宅 治
57 山住 住 士
58 黒山 住 志
59 三山 木 相
平成 元 民 部 真
2 森 佳 浩

精密応用化学科

平成3 川手 修
4 重岡 昭
6 田島 哲
8 末神 史
10 生越 正
14 真鍋 慎
15 泉好 一
築瀨 (大岡) 加代子

物質応用化学科

平成17 尾関 優
21 為保 成
22 清大 隆 弘

化学生命系学科

平成29 平岡 諒
30 坂田 也 介

大学院 工学専攻科

昭和42 荒川 泰 正

大学院 工業化学・合成化学専攻

昭和53 今林 頼 信

情報工学科

平成3 平山 浩 二
5 藤塚 謙 次
10 新軒 政 篤
12 行本 幸 一郎
13 中村 義 幸
14 吉田 真 教
16 武田 真 裕

生物応用工学科

平成3 亀高 邦 夫

生体機能応用工学科

平成7 中山 清 貴
村上 裕

生物機能工学科

平成12 浅野 拓 司
13 吉岡 朋 彦
15 坂谷 恒 平
20 小沢 賢 太
30 二岡 修 造

システム工学科

平成15 岡崎 聡
19 遠崎 大 樹
22 大西 創 右
30 藤本 華

大学院 博 知能開発科学専攻

平成9 帆足 孝 文

通信ネットワーク工学科

平成16 廣瀬 匡 一
19 藤原 康 行

旧職員

小上 長 哲 郎
5 宮浦 洋 一
6 宮崎 茂 次
7 金谷 健 善
8 田中 真 一
9 岡本 琢 卓
10 岡東 本 浩
11 福岡 福 隆

●令和元年度(平成31年度)分
ご寄付者444名(匿名希
望139名)

同窓会会計報告（平成30年度）

一般会計

収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	3,930,000	3,830,000	100,000	383名 @10,000×383名
2. 寄付金収入 寄付金収入	902,000	950,631	△ 48,631	444名 1,029口
3. 雑収入 受取利息	100,000	104,946	△ 4,946	普通、郵貯、有価証券
当期収入合計(A)	4,932,000	4,885,577	46,423	
前期繰越収支差額	4,774,045	4,774,045	0	
収入合計(B)	9,706,045	9,659,622	46,423	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,821,000	3,253,220	567,780	
通信運搬費	1,073,000	1,076,067	△ 3,067	会報郵送料 他
会議費	260,000	141,196	118,804	学科連絡委員会 他
学部教育支援経費	100,000	56,036	43,964	オープンキャンパス 女子学生との交流会
旅費交通費	100,000	86,860	13,140	関東支部同窓会
印刷製本費	1,662,000	1,570,976	91,024	会報 他
消耗品費	10,000	5,101	4,899	製本テープ 他
助成金支出	600,000	309,226	290,774	関東・関西・岡山支部
同窓会活性化経費	6,000	5,568	432	レンタルサーバ
雑費	10,000	2,190	7,810	振込手数料 他
2. 学科事業費	1,134,000	1,182,000	△ 48,000	
学科配分会費	1,134,000	1,182,000	△ 48,000	394名 @3,000円
3. 管理費	465,000	464,800	200	
業務委託費	400,000	400,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	65,000	64,800	200	同窓会員ゲームメンテナンス：小野高速印刷(株)
当期支出合計(C)	5,420,000	4,900,020	519,980	
当期収支差額(A)-(C)	△ 488,000	△ 14,443	△ 473,557	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,286,045	4,759,602	△ 473,557	

基金特別会計

収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

（単位：円）

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 寄附金収入 寄附金収入	1,000,000	1名
2. 雑収入 受取利息	131,468	有価証券
当期収入合計(A)	1,131,468	
前期繰越収支差額	3,433,285	
収入合計(B)	4,564,753	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	1,131,468	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,564,753	

岡山大学工学部創立60周年記念行事の中止について

標記行事が、当初の令和2年4月29日から令和2年9月27日（日）に延期され、その後中止と決定されました。内容は、以下の通りでした。

於 岡山ロイヤルホテル（岡山市北区絵図町）

①記念式典

②記念講演会

菅 裕明氏（東京大学教授、昭和61年工業化学科卒）

岸本照之氏（西日本電信電話株式会社 常務取締役、昭和61年電子工学科卒）

③記念祝賀会

（お詫びと訂正：本号に同封の「岡山大学 Alumni（全学同窓会）会報」13pの「工学部同窓会」欄において、「標記記念行事が開催されました」と記してありますが、発行時期を見越して予測で書いていたが、実際には中止され事実と異なります。お詫びして訂正させていただきます。）

工学部同窓会「コミュニティ広場」欄への寄稿のお願い

本号会報から「コミュニティ広場」欄を設けています。本欄の趣旨は、①工学部同窓会員で、事業や諸活動をされている方々のネットワーク作りを促進しようとするものです。これにより、新しい交流の場が生まれ、相互の活動が活性化されることを目的としています。②本欄は有料とし、同窓会の活動支援として一マス、3万円頂きたく存じます。ご寄稿戴いた方には、4コマサイズの広告を無料で工学部同窓会ホームページにも2年間掲載させていただきます。奮ってのご寄稿をお待ちしています。投稿書式等は工学部同窓会HPに掲載されています。

同窓会報、ホームページへの寄稿のお願い

会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。掲載記事の内容、書式等は、既報の会報、HPを参考にして下さい。なお、事務局・幹事により、内容により採否の判断、一部変更等をお願いすることがありますのでご了承ください。

支部活動の助成について

工学部同窓会の支部が、総会、懇親会等を行う場合に、通信費（小野高速印刷㈱を利用した実費）及び懇親会等の会合に要する経費（50,000円/年）を助成します。詳細は事前に事務局にご相談下さい。

住所変更等の連絡のお願い

会報は全員に登録された住所に配布しています。住所変更等がありましたら、同封の返信用封書、メール、またはハガキ等により、お名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス等（差し支えない範囲で）事務局までご連絡下さい。会報以外の情報もメールにて提供します。

寄付のお願い

同窓会は、皆様からの格別のお力添えに支えられて今日まで活動を行ってまいりました。また、事業継続と今後一層活発な同窓会にするためには、皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。ご寄付は、一口千円からですが、ご都合に応じて何口でも結構です。下記宛まで、よろしく願い申し上げます。

郵便振替 01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

* 同封の郵便振替用紙（1,000円またはそれ以上の場合）またはコンビニ支払い用紙（1,000円の場合）をご利用ください。通信欄にはお名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス（差し支えない範囲で）、会報への氏名掲載の可否等をご記入下さい。

編集後記

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部同窓会報第32号をお届けします。退職される先生方のご挨拶、各学科の近況報告、OPの方の職場紹介や各支部の報告など、充実した内容となりました。ご多忙の中ご寄稿いただきました卒業生の皆様、本学関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

今年は工学部60周年であり、60周年記念事業の準備も着々と進んでおりました。しかし、昨今のCOVID-19対策の事情もあり、延期の末、ついには記念事業（記念式典、記念講演会、祝賀会）が中止となってしまいました。学内外の関係者の方々が準備に御尽力されていましたが、その内容の一部は、60周年記念史に収録されると伺っておりますので、そちらを楽しみにしております。

今年はCOVID-19関係の話題で持ち切りです。1学期は全面的にオンライン講義、2学期も一部を除いてオンライン講義とする全学の方針も示され、学生や教職員も新しい環境になんとか適応しています。同窓会幹事会もオンライン開催となるなど、教育研究以外の面でも影響が出ています。これまで通りに活動することは難しい点も多々あるかと思いますが、このような状況だからこそ同窓会の皆様とのつながりが大事になるかと存じます。最後になりましたが、在校生や同窓生のために今後も同窓会を盛り上げられるよう活動してまいりますので、引き続き、同窓会へのご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学内代表幹事 佐藤 将也（情報系学科）

■ 編集・発行：岡山大学工学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内 TEL・FAX (086) 255-8311

■ メールアドレス：ofst@cc.okayama-u.ac.jp ■ ホームページ：http://oka-u-eng-alum.sakura.ne.jp/

■ 印刷所：小野高速印刷㈱ 〒670-0933 姫路市平野町62 TEL (079) 281-8837

2020年度 工学部同窓会総会・懇親会のご案内

本年も大学での出店、催し、研究室の見学会等が開催されます（詳細はHP）。皆様のご参加をお待ちしています。

工学部同窓会総会

日時：2020年10月17日（土） 15：30～16：30（受付開始 15：00）

場所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

議題：①工学部同窓会会則改正（工学部、大学院の組織変更に伴う改正）、②工学部同窓会の活動報告と課題（工学部同窓会代表幹事、各学科幹事）、③支部活動報告（関東、関西、岡山各支部から）、④意見交換

工学部同窓会懇親会（総会後、17：00～18：30；受付開始 16：30）

場所：南福利施設（ピーチユニオン4階）

懇親会費：2,000円（含アルコール、会費以上の内容です。工学部同窓会総会受付にてお支払い下さい。）

事前参加申し込み：メール（工学部同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp）にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月9日（金）までにご連絡下さい。コロナ禍で変更の可能性もあります。詳細は工学部及び工学部同窓会HPでご確認下さい。



工学部同窓会 コミュニティー広場

会員相互の情報交換の場としてご利用ください。本欄寄稿者には、工学部同窓会HPには4コマサイズの広告を掲載させていただきます。投稿を歓迎します。投稿要領等詳細は、本会報23頁の案内又はHPを参照して下さい。

内山工業株式会社

自動車用ガスケット、シール材、コルク製品の製造販売

X P、顧問：矢野 公二
(S48、合成化学科卒業)

連絡先：〒703-8588岡山市区小橋町2-1-10
TEL：086-272-7557
Email：k-yano@umc-net.co.jp

株式会社アース産業

地球を守る会社をスローガンに今まで培ってきた自動化、搬送装置の製造技術を活かして環境機器へ参入しています。木質ペレット製造装置やペレットの燃焼装置などに取り組んでいます。また、ガス化発電も取組中です。我々と一緒に未来を変えませんか？

三寺 建五 (H1生産機械卒、H3機械修)

〒712-8055 岡山県倉敷市南瀬 2-5-25
TEL. 086-455-2848
Email:mitekcn@mocha.ocn.ne.jp

(株)林原

トレハロースやプルランなどの機能性糖質の製造販売

生産技術部 課長 岡部浩幸 (H05生物卒)
工藤大蔵 (H15生体卒)
大塚巧磨 (H22生物卒、H24院卒)
河野俊亮 (H24化生卒、H26院卒)

Email:hiroyuki.okabe@hb.nagase.co.jp
daizo.kudo@hb.nagase.co.jp
takuma.otsuka@hb.nagase.co.jp
shunsuke.kono@hb.nagase.co.jp
連絡先：〒701-0145 岡山市北区今保578

絆コーポレーション株式会社

リーダーシップを極めた
経営コンサルタント/技術コンサルタント（経営・営業・生産・技術・開発）



代表取締役社長 三木 相煥
MIKI SOKAN

(S58年、合成化学科卒)

西宮オフィス 〒663-8113 兵庫県西宮市甲子園口4-7-4
ジオレミヨ甲子園口202
Tel&Fax 0798-64-6378
携帯Tel 090-2780-3747
E-mail:s.miki.family@cello.ocn.ne.jp
URL:<http://www.kizuna-corp.jp>

ペプチスター株式会社

ペプチド原薬の研究開発型受託製造会社

代表取締役社長：亀山 豊
(昭和58年工業化学科卒 (20期)、
平成5年自然科学研究科博士課程物質科学専攻修了)
連絡先：〒556-0022 大阪府摂津市三島2-5-1
TEL:06-6319-1690 FAX:06-6319-1550
Email:y-kameyama@peptistar.co.jp



別途Office Kameyamalにて、講演、講義、コンサルタント等も行っております

篠原秀徳

アンバソールジャパン(株)
エンジニアリングマネージャ

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-6-7 人形町共同ビル5F
h.shinohara@umbersoll.com

2007年3月岡山大学大学院自然科学研究科物質生命工学専攻修了
・JFEスチール(株)にてエネルギー設備の計画設計・建設・運用6年
・(株)日立製作所-MHPS(株) (新社名:三菱パワー(株))にてガスタービンの予防保全設計4年
・アンバソールジャパン(株)にて中東・アジア・ロシアの化学工業プラントの分析機器システムインテグレーション設計とデータ分析 (機械学習・AI開発) に3年間従事して現職

